

オガワホームかわら版

目次

- 1 まい・たうん・レポート
- 2 お宅訪問
- 3 お引越し / 着工式
- 4 コラム / リフォーム館だより

まい たうん レポート

番外編

木母寺 in 墨田区



今回は墨田区にある「木母寺」(もくぼじ)。梅若伝説の舞台として知られるお寺です。

平安の昔、人買いにさらわれて隅田川のほとりで亡くなったという梅若丸と、その子を探して狂人となってしまいう母。母子の悲劇を描いた梅若伝説は、能や歌舞伎の定番演目「隅田川」として有名、だそうです。もちろん私は知りません。

カーナビに従って隅田川沿いを走っていると、前方にひときわ目立つ前衛的なモニュメントが見えます。「新興宗教の集会場ですかね」と話していると、「ここですよ」とK氏。

嘩然として顔を見合わせるF氏と私。平安時代から続く由緒正しいお寺さん、でしたよね確か？

今回も例によって「趣味も建築」のK氏と「技術の鬼」F氏、そして私の三人連れ。行き先は最近もつばらK氏頼みですが、どうやらまたマニアックな所に連れてこられたようです。

木母寺の建物は三棟。先ほどの「前衛建築」は納骨堂でした。他に本堂と梅若堂があります。今回、K氏のお目当てはこの梅若堂です。

墨田区一带は、空襲の被害がもつともひどかった地域のひとつです。木母寺も例外ではなく、辛うじて焼け残ったのが梅若堂でした。

明らかに場にそぐわない感じの、鉄骨とガラスの建物で囲われています。まるで巨大なショーケース。大切に保存するためには仕方ないのかなと思いきや、「防火地域の基準に合わないからでしょう」とK氏。



▲ガラスで囲われた梅若堂

そういえば、戦後復興された本堂も納骨堂も鉄筋コンクリート造。由緒正しいお寺としては、味気ないとおびたらしい。

木造の梅若堂ひとつが燃えたところで、他に被害が拡がるようには思えないのですが、何でも一律にしない気が済まない行政への抗議か？などとうがったことを考えてしまいます。

ところで、境内には私たちが奇特を通り越して物好きと言わなければならない三人組のために、普段は閉め切りのガラス扉を開けて下さ

いました。念願の梅若堂の中に入れて、大喜びのK氏。



▲梅若堂の中にも入れて頂きました

仏堂というより、大きめの祠という規模の梅若堂。中には梅若丸とその母、中央に仏像が安置されています。建立は明治時代。維新時の廃仏毀釈で一時廃寺となり、明治二二年に復興された際のもので、それでも築百三十年ですから、立派な文化財です。

一方のF氏は、至るところにある穴が気になる様子。これはもしかして…

「弾痕ですね」やはり。焼夷弾の跳弾や機銃掃射の痕と思いき穴が、そこかしこに残っています。これで焼け残ったのが不思議なほど。



▲戦争の傷痕も生々しく残ります

本来の史跡は、その隣にある梅若塚。うん、単なる石の塊です。私たちの興味は、さらに隣の巨大な石碑へ移ります。「天下の糸平」誰だそれ？

糸というからには、生糸貿易が製糸で財を成した、平なんとかさんという金持ちだろろうとは想像が付きまします。しかも題字は伊藤博文。当時は天下の、というほどの大物だったのでしょうか。でも、主役であるはずの梅若塚より、更に言ってしまうと本堂より目立っています。それってどうなんでしょうか。

裏に回ってみると、発起人として渋沢栄一、福地源一郎など、私でも知っているような明治の人物がずらり。漢文で描かれた銘文をたどると、やはり田中平八という貿易商の碑でした。



▲部内一大きい石碑だそうです。

ここには他にもたくさん石碑があります。風化して何の碑かよくわからないものもありますが、中でも目立つのは「三遊塚」でしょうか。

名人・三遊亭円生を追福するために、弟子でこちらにも名人の三遊亭円朝が建立したものです。題字は山岡鉄舟、銘は高橋泥舟。司馬遼太郎の小説の登場人物がゴロゴロ出てきます。

一方、F氏はまた弾痕に食いついています。今度は「紀恩之碑」。やはり漢文なのですが、傷みが激しく、弾痕も多くてほとんど読めません。



▲三遊塚。落語の舞台にもなっていたようです。

「これ焼夷弾とかじゃないですよ。痕がほとんど水平ですよ」木と石の違いがあるとは言え、梅若堂の弾痕とは角度が違うようです。「進駐軍が面白がって射撃の的にしたんでしょかね」

言われて見れば、一文字ずつ狙って撃っているようにも見えます。確かにアメリカ人からは、漢字が模様には見えないうえに、嫌な想像をしてしまいました。

「もともと木母寺と梅若塚があった場所も、近くに残っていますよ」とK氏。戦後、防災団地の建設に伴い、今の場所に移転したとか。

せっかくなのでそちらも、と移動する三人。「榎本武揚の銅像もありますよ」また明治の偉人です。

防災団地の中の商店街を抜けたところに、小公園的なスペースがあります。そのあたりがかつての木母寺の境内です。区の教育委員会あたりが設置したらしい、史跡の説明プレートがいくつもあります。

「千年以上も前なのに、梅若丸を誘拐した犯人の名前までわかってるんですね」梅若塚を説明したプレートを見ながら、F氏感心しきりです。いや、そもそも梅若丸自体が伝説ですから。最初にそう書いてあるじゃないですか。「梅若丸は伝説上の人物で…」F氏、がっかり。



▲梅若塚の説明プレートを熱心に読むF氏。

榎本武揚像はその中心にある、高さ7mほどもある大きな像です。外交から農政まで実務家としての有能さが際立つ榎本さんですが、これが境内にあったということは、実は木母寺の復興に尽力した、なんていう一面もあったのでしょか。

…説明書きを読むと、どうやらただ近所に住んでいただけのようです。先ほどの「天下の糸平」といい、このお寺、いったい誰を供養したかったのかよくわかりません。梅若丸、かわいそうすぎ。悲劇はまだ続いているようです。



▲たまたま近くあっただけでこの偉容



▲スペースを贅沢に使った玄関ホール

「この家に住んでから、本当に来客が増えました。毎週末、必ず誰か来てますよ」とK様。お近くに住む奥様のご実家や妹さんご家族と集まる時は、いつもこの家です。お友達も頻繁に来られるとか。



外環から少し脇に入った閑静な住宅地に建つK様邸。6年目に入ってさらに趣を増した白の塗り壁とオレンジ色の屋根、大きく育ったシンボルツリーが、近隣でも際立つ美しさです。

ご夫婦とも小学校の先生をされているK様。この家ができた頃はご夫婦2人でしたが、今は4才と2才の元気なお子様にも生まれ、賑やかな毎日です。

そんなK様に、お家を建てた頃の思い出や、5年住んでみてのご感想などを伺いました。



K様邸では、六年目に入った今でも、玄関を入ると木の香りがします。「私たちはずっと住んでいるから慣れてしまってますが、香りがいいんですけれど。木の香り、してますか?」

そんなK様も、かつてオガワホームのモデルハウスに来られた時の第一印象は「木の香りがする」でした。

平成二二年の年明けに始まったK様の新築計画。まだ建設地も決まらない中、土地探しと建物の検討とが同時進行でした。

早い時期から自然素材を使った家造りを考えていたK様。当時住んでいたマンションの近所で開催されたオープンハウスで、自然素材を使った家を見てから、そこはご夫婦ともに譲れないポイントとなりました。さいたま新都心にある住宅展示場へ行ったのも、そんな家を探してのことです。

県内最大規模の住宅総合展示場には、大手ハウスメーカーの豪華なモデルハウスがひしめいています。入るのも気後れするような家が多い中、それでもイメージに近いところを探して何軒か見学してみました。当時そこにあったオガワホームのモデルハウスも、その中の一軒です。※さいたま新都心のオガワホームモデルハウスは、平成二六年二月に閉館しました。

実はほとんどありません。例えば床材ひとつを取っても、ひび割れや反りのリスクがあり、その対応も樹種ごとに違ったりします。良いことばかりでなく、欠点もきちんと説明できるければ、後で「そんな話は聞いていない」ということにもなりかねません。何百人という経験値も資質も様々な営業マンに、それを全て教えるのは大変な労力でしょう。

その日見て回ったモデルハウスでも、「ご希望であれば自然素材も使えますよ」とは言うものの、どこか腰が引けているところがほとんどでした。

「長島さんは最初に会った時から、材料一つ一つの長所も欠点も丁寧に説明してくれました」自然素材だけを一方的に勧めることもなく、売り込みも一切ないスタイルに、他社の営業とは全く違うものを感じていました。

それでもオガワホームに決めるまでには、その後一年余りかかっています。その間に、ご実家の知り合いの不動産業者さんから今の土地を紹介されました。様々な会社を見て回り、モデルハウスでの宿泊も二社ほどで体験しました。

「そういうえば今日、木の香りがする家は一軒もなかったな」今さらのように気づくK様。木の名前を冠したハウスメーカーでも、木の香りは全くせず、断熱材の説明ばかり熱心にされていたような気がします。自然素材を積極的に勧める大手ハウスメーカーは、



▲リビングの勾配天井。梁の配置にもこだわっています。

ギヤップに、がっかりすることばかりでした「オガワホームではそれがなかったと言います。当時のオガワホームのモデルハウス自体、展示場の中ではかなり小さく、生活感を前面に出していたという事情もありますが、「見せて頂いた実際の家がどこも素敵で、おしゃれな暮らしをさせてくれました」そして翌二三年に入る頃からは、オガワホームとの本格的な打合せが始まりました。「震災の余震が続く中で打合せしていたのを良く覚えています」と奥様。

でき上がったお家を見ると随所にご夫婦のこだわりが溢れているように見えますが、「実は私たちが具体的に出した要望はあまりないんですよ」というK様。リビングの勾配天井、玄関ホールの折上げ天井、階段のトップライトなど、印象的な意匠がたくさんあるのですが、「みんな菊地さんが打合せの中で提案してくれたものです」

今の土地が決まったばかりの頃、他社が測量図などの資料から机上でプランを作ってきた中で、「実際にこの環境を見に来た上で、二階リビングを提案してくれた」のが菊地でした。K様の信頼は絶大です。



▲内観スケッチ（菊地作）

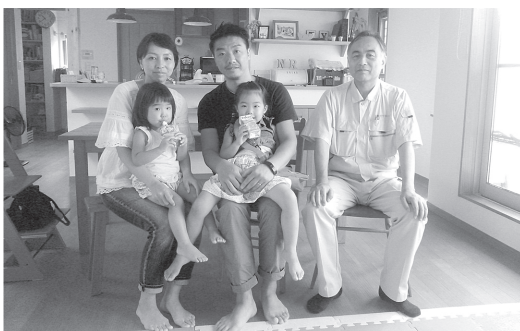
玄関ホールには、その菊地が描いた内観スケッチが、額に入れて大切に飾られています。「Mさん（菊地設計による入居者様）の家を見せて頂いた時に飾ってあって、うちの描いてってお願いしたんですよ（笑）」

トカードにも写真を使わせて頂きました。設計した菊地にどっとも、ひととき思い入れがあります。そのリビングも、今は子ども達に占拠されています。床にはジョイントマットが敷かれ、その上といい、キッンの周りといい、縦横無尽に走り回る子ども達。



▲どう見てもお父さんの方が嬉しそう。

「早くこのリビングを大人仕様にしたいんですよ」苦笑するK様。そんなお父さんにお姉ちゃんがまわりついて、おんぶをねだります。やっぱり、もう少しこのままがいいですよ、お父さん。



▲K様ご家族。営業担当の長島と一緒に。

お引渡し

新居が完成!



草加市K様

妻の両親の家が今井さんの担当で建てて頂きました。それが縁で今回、土地からいろいろ探して頂き、良い土地が見つかりました。ありがとうございます。共働きで、打合せなども夫婦一緒に時間を取るのは大変でしたが、出来上

がった家は二階リビングに、高い勾配天井、ロフトに広いバルコニーと、ものすごく気に入っています。



台東区R様

オガワさんに出会う前は、かなりの数の業者様と打ち合わせを行いました。どの方も今一つしっくりこなかった。「こんなものなのか」と思いつつ、インターネットサイトの業者紹介に申し込みました。そこから四社ほどご紹介があり、各社に来て頂いて、初回のお話でオガワさんに決めました。他の方と大きく違っていたのは、この業界で着実に年季を積み重ねられた経験が裏付けとなった引出しの数の多さです。すごいとすら思いました。

私は建築は素人ですが、宗教家として主に人と接する道を歩んで参りましたので、未だ修行途中の身ではあっても、ある程度人を見る目に自信はありました。この方達なら、私共が目指す建物造りのお相手として一番と言う確信が得られていたという次第です。結果はそれ以上の物になり、感謝の一言に尽きます。これからも宜しく願います。



蕨市S様

材料の施主支給を快く受け入れて頂いたおかげで、コストを抑えてこだわりの家ができました。基礎・構造のこだわりも含め、玄人好みの家造りをして頂いたという印象です。



草加市N様

この度は色々ありがとうございました。家の建替えはもちろん初めての事で、最初は不安しかありませんでした。でも同じ町内に福田さんが居てくれたことから、わかりやすく的確なアドバイスをしてもらい、本当に感謝しています。時折不明点や不安があっても的確な対応はとても助かりました。途中、窓の件でトラブルや不安もありまし



まもなく▶▶▶ 着工



千葉市Y様

社員寮の期限もあり二年前前から家の検討を始めました。大手メーカーなども見て回りましたが、職場の先輩の新居にお邪魔した際、私の嗜好にピッタリ合っていたのと、先輩の話を聞いてもとてもレベルが高そうに感じました。それからオガワホームさんの建物をいくつかも見せて頂き、契約に至りました。私にとって、また妻や子供たちにとって

も一生一度の買物になると思っています。皆様のお力をお借りして、いい家になればと思っています。



流山市M様

全て初めてのことで、ゼロから家を建てることに不安もありました。私は転勤族なのですが、子どもたちも地元と呼べる場所を与えてあげたい、生まれ育った地という意識で過ごしてほしいという願いから決断しました。プランの打ち合わせではいろいろな案を柔軟に取り入れて頂きました。なにぶん素人ですので、これからは皆様のお力に頼るしかありませんが、どうかケガのないように気を付けて、良い家を建ててください。



朝霞市I様

土地探しの段階から含めると三〜四年、計三十社以上は見たと思います。オガワホームに決めたのは、デザインはもちろんですが、工務店GP一位を取るなど施工がしっかりしていること、その安心感が決め手です。デザインを売りにしていく会社はたくさんありましたが、施工力がともなっていないところがほとんどでした。

これから家族五人で一生住む家になりたいと思います。四十年五十年住めるしっかりした家になるよう、皆様のお力を貸して下さい。



葛飾区H様

コンセプトは「家族が楽しく暮らせる家」です。綿密にプランニングして頂きましたので、良い家ができる予感がしています。完成が楽しみです。子ども達は工事現場が大好きで、解体の時もずっと見ていました。工事中も家族でしょっちゅう見に行かせて頂くと思いますが、お仕事のご迷惑にならないよう気をつけます。暑い中の工事となりますので

で、皆さんくれぐれも無理をしないよう宜しくお願いします。



松伏町H様

今住んでいるところも二十年?三十年程前にオガワホームで建てました。今回もまた、お願いすることにになりました。皆さん無事に、怪我の無いように宜しくお願いします。



北本市F様

やっと今日を迎えることができ、感慨深いものがあります。まだ完成したわけではないので、これから皆様のお力で、私たち家族にとっての特別な家を作り上げて頂ければと思います。

あとがき コラム

元祖「健康住宅」を訪ねて その2 山田醇の「保健的住宅」

前回に続いて、健康住宅のルーツを探ってみましょう。今回取り上げるのは、昭和初期の建築家、山田醇（じゅん）。『家を建てる人の為』（昭和三年）などの著作で、いち早く住環境の大切さを説いています。

「人が健康に過ごせる家づくり」山田の挑戦の始まりです。

山田醇は明治四五年に東京帝大建築科を卒業し、「辰野葛西建築事務所」に就職します。東京駅や日本銀行などの設計で名高い、当時最高の設計事務所です。正にエリート中のエリート。その後結婚し娘を授かった山田は、建築家として培った知識と経験を元に一家の住まいを探し求め、一軒の家にとどろつきまします。そこは、辰巳の角に大きな窓があるなど、家相的にも申し分のない家でした。

ところが、幸せなはずの新居での生活は思わぬ苦難に見舞われます。なぜか産まれたばかりの娘が泣き止まないのです。病気ではないかと名医を訪ね歩き、最終的に下された診断は「熱射病によるヒステリー症状」でした。理想的だったはずの家に、一つの欠陥がありました。南側が壁でふさがれ、熱がこもってしまう構造になっていたのです。使い勝手や家相、デザインばかりを

理想的だったはずの家に、一つの欠陥がありました。南側が壁でふさがれ、熱がこもってしまう構造になっていたのです。使い勝手や家相、デザインばかりを

「保健的住宅」

優れた結果でしょうか。転地療養の結果、幸い娘は健康を取り戻して事なきを得ましたが、建築家としての山田には大きな課題が残されました。

今こそ建築家が個人住宅を手掛けるのも珍しくありませんが、当時、山田ほどの一流建築家ともなれば、国家建設を担う大規模な西洋建築を手掛けるのが当たり前でした。しかし、以後の山田は、より良い住環境を求めて個人住宅の研究に取り組むこととなります。

最初の家の失敗は、換気と断熱でした。当時、換気扇も断熱材も普及していません。いかに季節ごとの日射を調整し、換気を十分に行うかは、ひとえに間取りを含めた建築計画にかかっていたのです。日中の大半を過ごす部屋

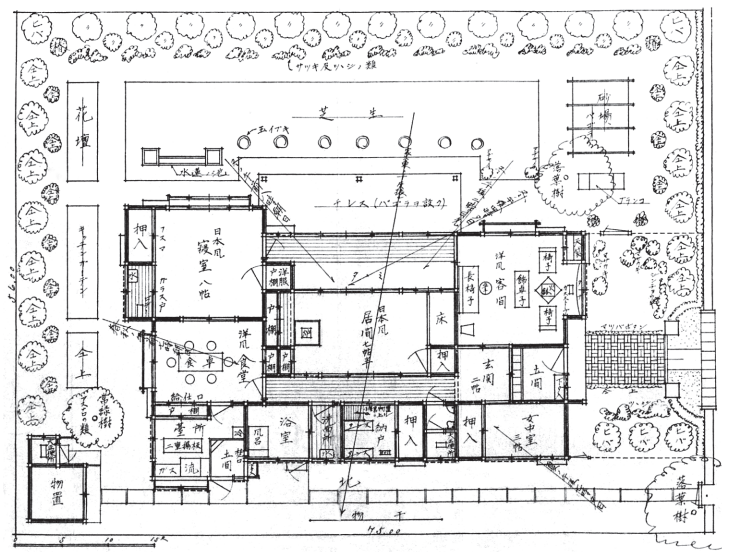


Fig.2 (注：南が上)

図版出典 Fig.1, 2:『住宅建築の実際』（山田醇, 昭和7年） Fig.3:『保健住宅』（山田醇, 昭和14年）

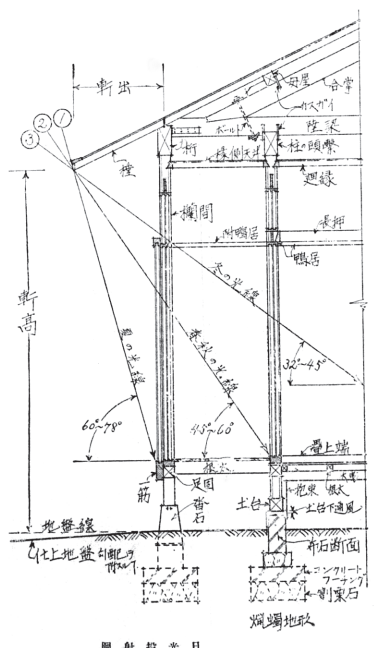


Fig.1



Fig.3

また、家全体の風通しを良くし、湿気をたまりにくくする一つのモデルプランを作成しました（Fig.2）。名付けて「保健住宅」。山田の研究の成果です。

な視点から「なぜそうなるのか」を解明し、伝統的な日本建築を再評価したのは山田の功績でしょう。単に自然素材を使ったから「健康住宅」ではありません。人が健康に過ごすためには、建築計画の段階で考えなければならぬことがたくさんあるのです。

Advertisement for Ogawa Home's 'Big Sale' (大セール) featuring a 0% interest loan campaign, kitchen and bathroom product listings, and a map to the event location at 545-1 Kita-Tsukaguchi, Kawasaki City.

Advertisement for Ogawa Home's 'Big Sale' (大セール) featuring a 0% interest loan campaign, kitchen and bathroom product listings, and a map to the event location at 545-1 Kita-Tsukaguchi, Kawasaki City.